

群馬県戦略的文化芸術創造事業「伝統と革新」の開催について

2020年の東京オリンピック・パラリンピックイヤーの幕開けを飾る、日本博の文化プログラムとして実施する「群馬県戦略的文化芸術創造事業」のプログラムを、2019年9月にオープンした高崎芸術劇場で開催します。日本博のテーマである「日本の美」=「日本の四季」をメインテーマに、世界的なアーティストである千住明氏を総合プロデューサーに迎えます。そして、群馬県で生まれ、創立75周年を迎え、日本の地方交響楽団の草分け「群馬交響楽団」との演奏に日本が世界に誇る歴史や伝統文化を加え、映像や現代アートのプロデューサーがタッグを組む革新的な公演です。

【日本博とは】

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として日本全国を舞台に実施することとされ、日本の美を体現する我が国の文化芸術の振興を図り、その多様かつ普遍的な魅力を国内外に発信することを目的に、日本各地で展開するものです。



千住明 (作曲家)

1960年東京生れ。東京藝術大学作曲科卒業。同大学院首席修了。修了作品「EDEN」(1989)は史上8人目の東京藝術大学買上となり、同大学美術館に永久保存されている。代表作にピアノ協奏曲「宿命」(ドラマ「砂の器」劇中テーマ曲)、「四季」、オペラ「万葉集」「滝の白糸」、「カレンダー組曲」等。ドラマ「ほんまもん」「風林火山」、映画「226」「黄泉がえり」「涙そうそう」「追憶」、アニメ「機動戦士Vガンダム」「鋼の錬金術師FA」、NHK「日本 映像の20世紀」「ルーブル美術館」NHKスペシャル「世紀を超えて」「平成史」「全貌二・二六事件」、TV「アイアンシェフ」、CM「アサヒ スーパードライ」、ウィーン美術史美術館&TBS公式テーマ曲「Glorious Museum」、中国ミュージカル「白夜行」等、音楽担当作品は数多い。2018年上海文化広場に於いてミュージカル「白夜行」の初演が大盛況のもと行われ、中国全国ツアー中。受賞歴多数。2019年には、天皇陛下御即位三十年記念式典にて天皇皇后両陛下による著作歌曲「歌声の響」の編曲とピアノを担当。三浦大知、千住真理子と共に記念演奏を披露。メディアへの出演も多く、NHK「日曜美術館」のキャスターもつとめた。"ANA Honolulu Music Week" Executive Director。東京藝術大学を中心とした音楽と美術の制作グループ「Senju Lab」主宰。東京藝術大学特任教授。ホームページ <http://www.akirasenju.com>



千住真理子 (ヴァイオリン)

2歳半よりヴァイオリンを始める。全日本学生音楽コンクール小学生の部全国1位。NHK交響楽団と共演し12歳でデビュー。日本音楽コンクールに最年少15歳で優勝、レウカディア賞受賞。バガニーニ国際コンクールに最年少で入賞。2002年秋、ストラディヴァリウス「デュランティ」との運命的な出会いを果たし、話題となる。2019年はベートーヴェン生誕250周年に先駆け、ピアニストの横山幸雄と「ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全集」をリリース。2020年はデビュー45周年を迎える。コンサート活動以外にも、講演会やラジオのパーソナリティを務めるなど、多岐に亘り活躍。また、チャリティーコンサート等、社会活動にも関心を寄せている。著書は「聞いて、ヴァイオリンの詩」(時事通信社、文藝春秋社文春文庫)母との共著「母と娘の協奏曲」(時事通信社)「千住家、母娘の往復書簡」(文藝春秋社文春文庫)など多数。ホームページ <http://www.marikosenju.com/>



若林 顕 (ピアノ)

日本を代表するヴィルトゥオーゾ・ピアニスト。17歳で日本音楽コンクール第2位。東京芸大で田村宏氏、ザルツブルク・モーツァルテウムとベルリン芸大大学院にてハンス・ライグラフ氏に師事。85年ブゾーニ国際、87年エリーザベト王妃国際コンクールで第2位受賞。02年カーネギーホール/ワイル・リサイタル・ホールでデビュー、ベルリン響、サンクトペテルブルク響などにソリストとして招かれたほか、室内楽ではS.イッサーリスらと共演するなど幅広く活躍。CDはチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番、ショパンのエチュード全集などの独奏作品、室内楽曲作品など多数リリースしている。92年出光音楽賞、98年モーヴェン音楽賞奨励賞、04年ホテルオークラ音楽賞を受賞。東京音楽大学・大学院客員教授、桐朋学園大学・大学院特任教授、国立音楽大学・大学院招聘教授等。ホームページ <http://www.wakabayashi-akira.com/>



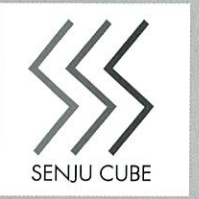
群馬交響楽団

1945年戦後の荒廃の中で文化を通じた復興を目指して創立、1955年「群響」をモデルに制作された映画「ここに泉あり」が公開され、全国的に注目を集めた。1947年から始めた移動音楽教室は、2018年度までに延べ638万人を超える児童・生徒が鑑賞した。2014年6月には定期演奏会が500回に達し、2015年11月には創立70周年を迎えた。群馬交響楽団は群馬県の文化の象徴として県民から幅広く支持されている。2019年4月より小林研一郎がミュージック・アドバイザーに就任。



千住博

1958年東京都生まれ。東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業。同大学院博士課程満期退学。これまでにヴェネチア・ビエンナーレに2回出品し、95年には絵画作品としては東洋人で初めて名誉賞を受賞。そのほかミラノ・サローネなどにも出品。2011年に軽井沢千住博美術館開館。16年「平成28年度外務大臣表彰」を受け、17年「第4回イサム・ノグチ賞」受賞、18年には「日米特別功労賞」受賞。作品はメトロポリタン美術館を始めとする世界主要美術館に収蔵、展示されるなど、国際的な評価も高い。現在、京都造形芸術大学学長を経て、同大学院教授。



SENJU CUBE

2004年に千住博、千住明、千住真理子3人のコラボレーションを目的に作られたレーベル。羽田空港第二ターミナルのアートデレクション内で使用された「四季」をきっかけにCDアルバム「Senju plays Senju」が制作された。



田村 吾郎

2002年 東京芸術大学美術学部デザイン科卒業、同大学院美術研究科博士課程へ進み、ソウル大学で研究活動を経て2007年に修了後、東京芸術大学美術学部デザイン科教育研究助手。2010年～東京工科大学デザイン学部専任講師。大学で教育に従事する傍ら、アートディレクター、クリエイティブプロデューサーとして企業、音楽団体、ホール、音楽祭などのブランディング、映像を駆使した斬新な手法で演奏会やオペラなどの演出を手がけている。近年では大型球体スクリーン「WV Sphere5.2」など、装置などの開発も手がけ、アート、テクノロジー、デザイン、経済、文化などあらゆる領域を包括的に捉え、様々なジャンルのプロデュース、ディレクションを実行している。